

# ACP(Advance Care Plannig)の実践について

-----グループワークを交えて

中部国際医療センター 精神腫瘍科  
のぞみの丘ホスピタル 長寿支援部  
森藤 豊

## § 1 ACPとは

ACPはこれから先の療養や治療について患者・家族、そして医療従事者とが事前に話し合いを行うことを指している。

厚生労働省では、「人生会議」という名称をあてている。

ACPでは、人生会議として開催されるタイミングとして大きく二つのタイミングがあると考えてよい。

- 予後が定まった疾患に罹患してから開催される人生会議
- 時期は問わず、将来のことを話し合う意味合いの強い人生会議



## § 2 実情

### ◆中部国際医療センター緩和ケアチームが介入して行う ACP

チーム介入依頼を受けた場合、今後の生活スタイルの要望を本人から伺いながら、面会などが実施される際に、スタッフを交えながら話し合いを行っていく。

### ◆のぞみの丘ホスピタルシニア外来で行う ACP

認知症の鑑別のために受診された患者の精査をすすめながら、特に独居状態にある患者を中心に、5年後の生活スタイルについて現実的にどのような状況が考えられるか…本人の要望も交えて親族・家族内で話し合い、ケアマネージャーとの共有をアドバイスし、促す。

### ◆ある種の ACP として一般的に広く行われているもの

臓器提供意思表示カード

ある種の AD (Advance Directory) で、これを身内内で共有するのが ACP



### § 3 グループワーク

3つの事例（別紙添付）は ACP 自体が意識されていない中で発生した対応困難事例となっている。

このような事例を通して見いだせる課題と現実的な ACP に近づける取り組みにどのようなことがあるか。

フリーな感覚で検討してみましょう。

